

# 令和4年度宮崎大学農学部地域貢献最優秀賞 受賞のことば

農学部獣医学科

末吉 益雄 教授

この度は、誠にありがとうございます。この賞は、まさに地域の方々・学内の皆さまのご理解とご協力があったの賞であります。今までの活動を評価いただき大変光栄です。関係者を代表しまして御礼申し上げます。現在、大学教員の地域貢献度は分かりづらい領域ですが、今後もこの領域の活動表彰については、継続していただき、若手教員のモチベーションアップになることを期待しております。この領域での活動は後述しますように、教育・研究にも深く関与していますので、大学総力のレベルアップ効果も産まれるはずです。

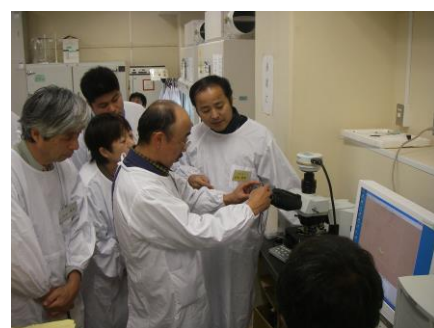
ところで、私の前職は農林水産省家畜衛生試験場（現、農研機構動物衛生研究部門）で、約20年間勤務しておりました。一次産業としての畜産を振興させることで、国民の健康増進に寄与する使命を常に意識していました。国民の健康維持に直結し、食卓の危機になり得る重大な家畜伝染病の防疫に関しては、国内外の発生情報について常にアンテナを張り巡らし、警戒していました。また、私は研究職でしたが、行政機関でもありましたので、国内全都道府県の畜産課や家畜衛生対策課とは密接な関係にあり、ある地域で、重大事故（事件）があれば、祝祭日、深夜関係なく、調査に行き、問題解決策をチームで探るミッションがありました。その習慣は、約20年前に当学に転任してからも体に染みついており、現在も、前職場、全国の家畜保健衛生所、畜産協会、畜産関係団体等々、そして、多くの生産者とは深いお付き合いをさせていただいており、数多くの相談を電話、メールでいただき、時には、対面で解決策について白熱した議論をする機会もありました。実際に経験した、2010年の口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザのアウトブレイクとその防疫活動はその最たるものでした。今も当研究室HPや私個人のHPで家畜伝染病の国内外の発生情報をほぼ毎日発信し続けています。

私が、実施してきた、市民公開講座、講習会、研修会などで、参加者と交流し、いろいろな社会ニーズと言う埋もれた課題が浮き彫りとなり、それが研究にも繋がり、また、そのニーズにマッチングした卒論、修論や博論研究のテーマになり、学生達の教育や彼らのモチベーションアップにもなりました。教員の視野だけで「必要だから」と言うだけではなく、実際の「社会で求められていることなのだから」の方が、断然学生達の胸の奥の「やる気、やり甲斐」に火がつきます。また、それらの研究成果を学会や学術雑誌で公表するだけでなく、いち早く、ニーズの起源にフィードバックすることで、学外の多くの関係者からも（良い意味で）大学の敷居が低くなった、と言葉もいただきました。

まもなく私は現職定年を迎えますが、この地域・社会貢献については、これからも初心を忘れることなく、生涯継続していけるよう今後も励むつもりであります。皆さまには、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。この度はありがとうございました。ここに重ねて御礼申し上げます。

研究室HP：<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/msuei/index.htm#eisei>

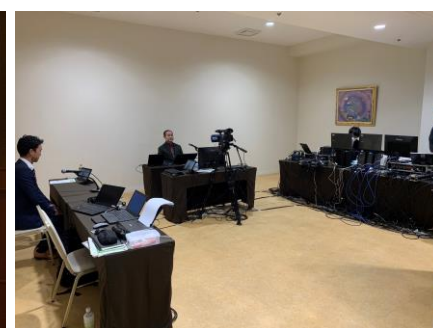
個人HP：<https://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/msuei/Sue.html>



HACCP研修会様子



NHK放映写真



webセミナー配信の様子



シンポジウム後インタビュー



シンポジウム総合討論右-末吉

# 令和4年度宮崎大学農学部地域貢献優秀賞 受賞のことば

農学部海洋生物環境学科

内田 勝久 教授

## 地域に愛される延岡フィールド（水産実験所）を目指して

私が木花キャンパスから100km離れた農学部附属フィールド科学教育研究センター・延岡フィールド（水産実験所）の教員として活動をスタートしてはや7年が過ぎようとしています。はじめて延岡市民を対象とした公開講座で私がお聞きした内容は、“延岡市赤水地区にある水産実験所をご存じですか？”でした。ほとんどの方の答えは、“知りません”でした（おそらく、今もって、学内の方々も、その様な施設がある事をご存じの方は少ないのかもしれない。これを機に知ってください）。悔しい思いと同時に、何とか水産実験所を地域の方々に知って頂き、活気のあるマリンステーションにしたいという切なる思い、これこそが、私の地域貢献活動の出発点とモチベーションになっていると顧みています。

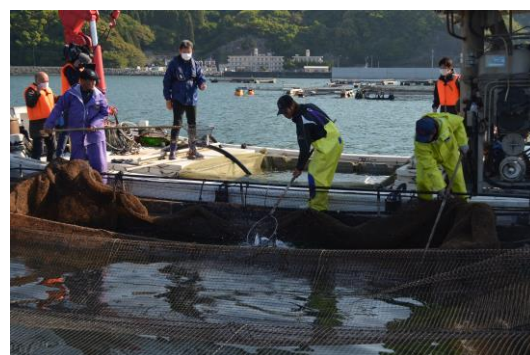
実験所の周りには磯採集や磯釣りのできるフィールドがたくさんあるではないか、県北はお魚の町、養殖の盛んなエリアだよなあ。そんな実物に触れ、実物を見て学べる海洋生態系や、現場レベルで水産を学び、研究できる地の利を活かさない手はないぞと、多くの教育研究活動や地域社会に親しまれる活動を展開してきました。学内向けの臨海実習に加え、他大学生や小中高生、一般市民に対する実習や海の生き物の観察会、実験所をミニ水族館に作りかえ開放する展示イベント、公開講座“海を知る”、“海の学校”、“魚をさばく”などは毎年恒例のイベントとして、定着化し、県内全域から受講生が参加しています。また、私の研究活動を基盤としてできた大学発ベンチャー(株)Smoltも、県北の養殖事業者と連携して、サクラマスの生産と商品開発・販売を、順調に進めています。いずれの活動においても、人と人の繋がりが本当に大切なものとなり、多くの方々に支えられ、一緒に歩んできた地域貢献活動だと痛感し、今、皆様に感謝の気持ちが溢れています。また、子供たちや大人の生き生きとした目、“先生、海の生き物にたくさん触れられて楽しかったあ、また来るね”の言葉は、全ての疲労感を消し去り、次の活動の源になっていること間違い無しです。

今回、農学部から地域貢献優秀賞を賜りましたこと、本当にうれしく感謝の気持ちでいっぱいです。また、この先、延岡フィールドは、延岡市からも市政発展に貢献した団体として表彰される予定です。これらを励みに、今後も、楽しい学びの新企画も発信しながら、地域に親しまれ、愛され続ける延岡フィールドを目指して、歩んでいきたいと考えています。

“みんなあ、延岡フィールドのイベントはてげえ楽しいっちゃんが、いつかきないよお。”



延岡フィールド水族館で、  
“親子でウニ発生を学ぼう”の時の様子



北浦の養殖生け簀での  
サクラマス水揚げ時の様子



海の生き物たちに大興奮の小学生たち



大人も大奮闘！公開講座“魚をさばく”

# 令和4年度宮崎大学農学部地域貢献優秀賞 受賞のことば

農学部獣医学科

関 口 敏 准教授

## 現場とチームの支えがあってこそその受賞

この度は、大変栄誉ある賞を頂戴し、誠にありがとうございます。地域貢献という普段はなかなか評価の対象とならない分野に光を当て、評価いただいたことに驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。私の専門は、家畜伝染病の発生を予防・制御するための獣医疫学です。この学問分野では頻りに野外調査を行うため、農場の生産者や臨床獣医師、自治体、企業等の現場の方々の協力が欠かせません。農場でのサンプリングや家畜防疫に関するインタビュー・アンケート調査など、非常に多くの方にご支援いただきました。これまで私たちの研究・教育活動にご理解・ご協力いただきました関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。また、この活動を通して、学生が地域社会との接点を持つ機会が得られたことを、とても幸運に思います。研究室の学生やスタッフが同じ目標を共有しながら、チーム一丸となって活動が続けられることに心から感謝しております。この賞は、このような多くの方々のご支援があってこそその賞だと思っております。これからも初心を忘れることなく、地域に貢献できるよう精進して参ります。どうか今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

